

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26244040

研究課題名(和文) 日本墨書土器データベースの構築

研究課題名(英文) Constructing a Database of Japanese Pottery with Ink Inscriptions

研究代表者

吉村 武彦 (Yoshimura, Takehiko)

明治大学・文学部・名誉教授

研究者番号：50011367

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 19,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究の基礎となる墨書土器研究文献目録は2180点を数え、明治大学の日本古代学研究所のホームページで公開している。画像付きの詳細なデータベースは、山形県・茨城県(補遺)・奈良県(平城京)・兵庫県・広島県・鳥取県(因幡国・伯耆国)・鹿児島県(薩摩国補遺)・鹿児島県(大隅国)を公開した。現在は、三重県・滋賀県・島根県・岡山県のデータ集成が終わり、入力を準備中である。
その結果、都城を含め、日本全国の墨書土器の状況の理解と比較研究が、できるようになった。また、全国墨書・刻書土器データベース検索(オンライン検索)のシステムによって、ネット上で墨書土器の検索が可能である。

研究成果の概要(英文)：Since very few sources are available for research into the ancient history of Japan, artifacts with inscriptions that have been archaeologically excavated are indispensable. We have created electronic database of pottery with ink inscriptions and carved characters discovered in Japan, and published it on the homepage of the Meiji University. The database consists of 2180 references of relevant literature as well as pottery discovered from the northeastern mainland Japan to Kyushu. Because our database is available through internet, to which anybody can search and access.

研究分野：日本古代史

キーワード：墨書土器 日本史 考古学 古代史 データベース 文字史料 刻書土器

1. 研究開始当初の背景

(1) 文献・文字史料がきわめて少ない日本古代史の分野では、出土文字史料の木簡・墨書土器(含刻書土器)・文字瓦などが貴重な史・資料である。木簡に関しては、独立行政法人奈良文化財研究所(奈文研)が木簡データベースを公開しているが、墨書土器についてはデータベースが存在していなかった。

(2) 当初は、全国の簡易型墨書土器データベースとして、「釈文・遺跡名・所在・出典」の形式で公開してきた。その後、詳細なデータベースとして、「遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体」を網羅する形式で、墨書土器研究文献目録とともに、明治大学・古代学研究所のホームページで公開した(<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/>)。しかし、膨大な作業が必要なため、全国的な詳細な墨書土器データベースの構築は、形成途上であった。

(3) データベースの公開は、すでに『史学雑誌』(史学会)や『日本歴史』(日本歴史学会)をはじめとする古代史学界で高く評価され、日本古代史研究に欠かせないツールとして各地の研究者に利用され始め、全国的な詳細なデータベースの完成が求められていた。

2. 研究の目的

(1) 日本古代史では、研究史料となる文献がきわめて少なく、考古学の発掘調査によって出土する木簡・墨書土器(含刻書土器)・文字瓦などの出土文字史料が重要な研究素材である。数十万点とされる木簡は、奈良文化財研究所により木簡データベースとしてネット上で公開されている。木簡につぐ数の墨書土器については、本申請代表者が明治大学の古代学研究所のホームページで、検索機能も付加して公開し、古代史研究に寄与してきた。日本国内における詳細な画像情報付きの墨書土器データベースを完成・公開することは、古代史研究を発展させるために喫緊の課題である。なお、全国版の作成は我々の研究しかない。

(2) 毎年、出土数が増加している墨書土器データベースを拡充させることが重要で、文字史料の少ない古代史では必要不可欠な研究作業である。これまでは一部の県・市の行政単位で県・市史の編纂作業の一環として作られてきたが、県・市史の刊行後は終了するのが現実である。そのため、データベースの集成作業は、県・市史の編纂作業と関係なく継続していく必要がある。

(3) 日本の墨書土器は、古代中国・朝鮮の影響を受けているので、東アジアの視点から研究する。韓国・中国出土の墨書土器との比較研究は、なかなか進まない。こうした比較

史の立場を維持しながら、まず日本における詳細な墨書土器データベースの構築に向けて全力投球する必要がある。また、日本においても地域によって、墨書土器の出土点数には多寡があり、各地の地域的特徴を把握していく必要がある。

3. 研究の方法

(1) 歴史学においては、史料集成としてのデータベース構築自体が重要な研究である。墨書土器(含刻書土器)に関係する報告書・概報・年報・地方史誌などの図書・文献の調査を行い、必要な報告書等を購入するとともに、現地の大学・博物館・埋蔵文化財センター等に出張して、各種文献の複写・収集を行う。連携研究者の支援をえて、各地域の出土文字史料の関係図書と研究文献を集成する。そして、必要事項を入力し、日本全国の墨書土器研究文献目録とデータベースを作成する。

(2) データベースの構築は、各都府県単位(旧国制を配慮する)に関係文献を収集し、墨書土器データを集成する。墨書土器は、主に考古学の発掘調査によって出土するので、地域において墨書土器等の出土文字史料に詳しい研究者・発掘担当者らと連携して、墨書土器関係の図書の調査、とりわけ発掘報告書等の文献の悉皆調査が必要がある。

(3) 墨書土器情報のデータ(釈読文・実測図、遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体)を収集する。作業としては、各地の墨書土器関係の情報(報告書・概報・地方史誌等)を収集して表形式のデータを作成し、それを電子媒体にしてホームページで公開することになる。

(4) 墨書土器の歴史的意味を解明するため、出土文字史料が豊富な下総国府・国分寺地域(千葉県市川市)を対象に、地域研究を行う。また、日本の墨書土器の特徴を究明するために、韓国・中国の墨書土器との比較を意識して、データベース作成の準備作業とする。

4. 研究成果

研究の基礎となる墨書土器関係の研究文献目録は、大学図書館・博物館図書室や全国各地の埋蔵文化財センター等において、研究文献・報告書等を調査して作成している。現在は2180点になっている。研究文献リスト(墨書土器研究文献データベース)は引き続き、明治大学の日本古代学研究所ホームページで更新したい。研究の基礎となり、また全国の墨書土器調査・研究者のデータとして共有したいので、最新情報を集成し継続して発信していきたい。

墨書土器データベースとしては、画像付きの詳細なデータベースは、山形県・茨城県(補

遺)・奈良県(平城京)・兵庫県(但馬国)・広島県・鳥取県(因幡国・伯耆国)・鹿児島県(薩摩国補遺)・鹿児島県(大隅国)を公開した。このほか三重県・滋賀県・島根県・岡山県がデータ集成が終わり、入力・点検中であり、早期に公開できるように努めたい。

データベース構築の入力にはかなり時間を要するが、大阪府・京都府め奈良県が入力作業中である。また、データベースの基礎作業として文献の悉皆調査が必要となっているが、学内で青森・宮城県・福島県の墨書土器データの図書を収集中である。

その結果、平城宮・京と長岡京の宮都を含め、西日本と東日本の地域的な比較研究が可能となっている。すでに各地の埋蔵文化財センター等で、出土した墨書土器の釈読にあたり、本データベースが利用されている。現場の担当者の調査・研究に資するところが多いと判断している。

地域研究としては、主に千葉縣市川市を対象に、市川市史編纂と連携しているが、未公開地域の地域研究者とデータベース構築の打合せを行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計18件)

吉村武彦、大宝田令の復元と『日本書紀』『明治大学人文科学研究紀要』80、査読有、明治大学人文科学研究所、2017年、17-49頁

吉村武彦、東アジアにおける日本古代国家形成の諸問題(覚書)、『日本古代学』8号、査読無、明治大学日本古代学教育・研究センター、2016年、71-87頁

吉村武彦、飛鳥の時代と蘇我氏、『世界に伝えたい飛鳥・藤原の魅力2014』、査読無、2015年、31-34頁

吉村武彦、律令制国家の成立と鞠智城、『鞠智城東京シンポジウム2014』、査読無、熊本県、2015年、20-43頁

吉村武彦、「浄御原朝庭の制」に関する二・三の考察、『日本古代の国家と王権・社会』、査読無、2014年、3-29頁

加藤友康、平安期における鞠智城 9世紀～10世紀の対外関係と「菊池城院」「菊池郡城院」、『鞠智城東京シンポジウム2015』、査読無、熊本県、2015年、73-90頁

加藤友康、吉田晶氏と日本古代社会論『日本古代村落史序説』・村落首長制論を中心に、『歴史科学』220・221、査読無、大阪歴史科学協議会、2015年、120-132頁

加藤友康、日本の古代道路と地域社会、『人と国土』21、査読無、2015年、47-51頁

加藤友康、日本古代の情報伝達と出土文字史料、『日本古代の国家と王権・社会』、査読無、2014年、427-448頁

柴田博子、弘仁式以前の諸司例、『寧楽史苑』61、査読有、奈良女子大学史学会、2016年、15-31頁

柴田博子、鹿児島県春花地区遺跡群出土ヘラ書き土師器- 駅路関係遺跡と「足」-、『日本古代の国家と王権・社会』、査読無、2014年、513-531頁

市大樹、門籍制に関する一考察、史聚50号、査読無、2017年、27-38頁

市大樹、隠岐国海部郡の荷札木簡とミヤケ、『隠岐の文化財』33、査読無、隠岐の島町教育委員会等、2016年、1-20頁

市大樹、日本古代閼制の特質と展開、『歴史科学』222、査読無、大阪歴史科学協議会、2015年、1-23頁

市大樹、出土文字資料からみた古代の駅家、『考古学ジャーナル』665、査読無、2015年、24-28頁

市大樹、黎明期の日本古代木簡、『国立歴史民俗博物館研究報告』194、査読有、2015年、65-100頁

市大樹、平城遷都直前の元日朝賀と賜宴、『日本古代の国家と王権・社会』、査読無、2014年、223-243頁

荒木志伸、「古代の官衙」、『考古学調査ハンドブック』11、2014年、208-223頁

[学会発表](計24件)

吉村武彦、『播磨国風土記』とクニ・国土、明治大学日本古代学研究所、明治大学、2016年11月12日

吉村武彦、大宝令の復元と『令集解』『日本書紀』データベース、国際学術研究会<交響する古代>、明治大学大学院文学研究科・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業等、明治大学、2017年1月14日

吉村武彦、古代東国の「文字世界」、上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会等(招待講演)、高崎市吉井文化会館、2016年3月6日

吉村武彦、古代武蔵の時空間 東山道武蔵国の成立、古代武蔵国研究会・日本古代学研究所、明治大学グローバルホール、2015年11月15日

吉村武彦、東アジアにおける日本古代国家の形成の諸問題、中国社会科学院国際合作局・日本明治大学 中日交流中日関係的歴史考察学術研究会(第5届)(国際学会)、中国社会科学院近代史研究所学術報告庁、2015年11月3日

吉村武彦、『古事記』『日本書紀』とヤマト王権の成立、大阪府立近つ飛鳥博物館秋季特別展講演会(招待講演)、大阪府立近つ飛鳥博物館、2014年11月23日

吉村武彦、井上光貞と律令法研究、私立大学戦略的基盤形成支援事業採択記念シンポ

ジウム、明治大学、2014年11月22日

加藤友康、日本古代における文書整理の営為、国際学術研究会〈交響する古代〉、明治大学大学院文学研究科・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業等、明治大学、2017年1月14日

加藤友康、古事談の情報源 古記録が筆録した情報と「言談」への変容の検討を通して考える、国際日本文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」、国際日本文化研究センター、2016年9月11日

加藤友康、古事談における古記録の抄録 貴族たちが共有した「世界」、国際日本文化研究センター共同研究、国際日本文化研究センター、2016年3月5日

加藤友康、平安時代史をどう捉えてきたか 通史叙述にみる平安時代像、中国社会科学院国際合作局・日本明治大学 中日交流與中日關係の歴史考察学術研討会(第5届)(国際学会)、中国社会科学院近代史研究所学術報告庁、2015年11月3日

加藤友康、日本古代社会における交通の特質、交通史学会(招待講演)滋賀大学(彦根市)、2014年5月10日

川尻秋生、古代東国の在地社会と仏教、民衆史研究会2016年度大会シンポジウム、2016年11月27日、早稲田大学

川尻秋生、将門の乱と古代末期の関東、埼玉県立武蔵嵐山史跡の博物館企画展「中世黎明」関連講演会(招待講演) 独立行政法人国立女性教育会館講堂、2016年1月15日

川尻秋生、出土文字資料からみた総武河口論、国際学術研究会「交響する古代」、明治大学、2015年2月27日

柴田博子、宮崎県出土考古資料にみる文字、西都原考古博物館(招待講演)、西都原考古博物館、2015年5月16日

市大樹、古文書学から史料学へ 日本古代・中世史の研究分野を中心に、第97回大阪大学歴史教育研究会例会、2016年6月18日、大阪大学文学部

市大樹、A Comment from Japanese History, Law and Writing Habits in the Ancient world、2016年9月1日、Room G22/26, Senate House (イギリス)

市大樹、日本古代における漢字使用の始まり、モノと文献でわかる古代・わからない古代、大阪大学文学研究科・フランス国立東洋言語文化大学国際共同シンポジウム、2016年12月3日、国際交流基金パリ日本文化会館ホール

市大樹、飛鳥・藤原京跡出土木簡から見た日本古代国家の形成、日本考古学協会(招待講演)、奈良大学、2015年10月18日

④市大樹、紙木併用時代の日本古代木簡、晋洲史中的日本古代国際検討会(国際学会)

清華大学(中国北京)、2015年9月19日

②市大樹、木簡からみる文化交流 国の成り立ち、文字の成り立ち、第2回古代歴史文化賞受賞作決定記念シンポジウム(招待講演)、くにびきメッセ3F国際会議場(島根県)、2015年2月8日

③市大樹、隠岐国の荷札木簡、島根県古代文化センターシンポジウム(招待講演)、大社文化うらら館(島根県)、2014年9月14日

④荒木志伸、古代出羽国と烏海山 - 遺跡から見た災害の様相 -、平成28年度ジオガイド養成講座 初級編、秋田県にかほ市、2016年12月11日

〔図書〕(計15件)

土生田純之・亀田修一(共著)吉村武彦、『日本古墳時代研究の現状と課題 下』(韓国語版) Zininzin Co.Ltd, 2016年、総413頁(391-407頁執筆)

吉村武彦(単著)、『蘇我氏の古代』、岩波書店、2015年、総276頁

館野和己・出田和久(共著)川尻秋生、『日本古代の交通・交流・情報3 遺跡と技術』、吉川弘文館、2016年、総370頁(300-321頁執筆)

川尻秋生(単著)、『古代の東国2 坂東の成立 奈良・飛鳥時代』、吉川弘文館、2017年2月、総266頁

鈴木靖民・川尻秋生・鐘江宏之(共著)、『日本古代の運河と水上交通』八木書店、2015年、総458頁(3-24頁執筆)

安田政彦(共著)柴田博子、『生活と文化の歴史学8 自然災害と疾病』、竹林舎、2017年、総496頁(374-404頁執筆)

木下正史(共著)市大樹、『ここまでわかった飛鳥・藤原京』、吉川弘文館、2016年、総256頁(143-176頁執筆)

塚口義信(共著)市大樹、和泉書院、日本古代学論叢、2016年、総564頁(63-72頁執筆)

鷹取祐司(共著)市大樹、立命館大学、古代中世東アジアの関所と交通制度、2017年、総335頁(31-78頁執筆)

市大樹(単著) 塙書房、日本古代都鄙間交通の研究、2017年、総686頁

梅村喬(共著)市大樹、『三重県史 通史編 原始・古代』、三重県、2016年、総861頁(394-454頁執筆)

館野和己(共著)市大樹、『日本古代の交通・交流・情報 制度と実態』、吉川弘文館、2015年、総312頁(2-30頁執筆)

館野和己(共著)市大樹、『日本古代のみやこを探る』、勉誠出版、2015年、総630頁(391-412頁執筆)

市大樹(単著)、『飛鳥の木簡』(ハングル

語版)、周留城出版、2014年、総307頁
続日本紀研究会(共著)市大樹、『続日本紀
と古代社会』塙書房、2014年、総頁480頁(3-24
頁執筆)

国立歴史民俗博物館(共著)市大樹、『文字
がつなく 古代の日本列島と朝鮮半島』、
国立歴史民俗博物館、2014年、総247頁(36
- 43頁執筆)

読売新聞北陸支社(共著)荒木志伸、『北
陸から見た日本史』洋泉社、総223頁(79-96
頁執筆)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉村武彦(YOSHIMURA, Takehiko)
明治大学・文学部・名誉教授
研究者番号：50011367

(2) 研究分担者

加藤友康(KATO, Tomoyasu)
明治大学・文学研究科・教授
研究者番号：00114439

(3) 連携研究者

川尻秋生(KAWAJIRI, Akio)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70250173

柴田博子(SHIBATA, Hiroko)
宮崎産業経営大学・法学部・教授
研究者番号：20216013

市 大樹(ICHI, Hiroki)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：00343004

荒木 志伸(ARAKI, Shinobu)
山形大学・基盤教育院・准教授
研究者番号：10326754

(4) 研究協力者

()